

郷土を知る

昔々の そお市

第35回



世貫神社の御田植祭

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

末

吉町岩崎宮原に鎮座する世貫神社では、毎年3月26日に御田植祭が実施されており、平成12年6月13日に市指定文化財となっております。

いつ頃から行われていたのか不明ですが、昔は、人出も多く大層賑わっていたそうです。

御田植祭は、稲作の耕作の過程を歌と仕草で表現し、神牛（模擬牛）も登場する、豊年予祝の行事です。神牛は、例年は雄牛、閏年は雌牛が登場します。

祭りは、最初に神社の保食神前の庭で、氏子二人が櫂とイボタの枝先を力ギにして引つけて振り回します。次に、神官が牛褒めの口上を述べ、神牛にスギを付けて、田に見立てた庭を回って荒田よみを行います。さらに神官は四方に詞を奏しながら種蒔きを行います。最後に、参加者全員が円陣を作つて、早苗に見立てた杉の葉を両肩に担いで回り、田植えの模倣をして終了となります。

少し前は隔年開催でしたが、近年は毎年開催しています。

余談ですが、現在の世貫神社の祭神は、島津忠良（日新斎）と常盤（忠良の母）となつています。忠良は、島津家中興の祖と呼ばれる名君です。また『いろは歌』を作り、後の薩摩藩の思想

に大きな影響を与えています。その内容は、現代社会でも共感出来るものが数多くあります。

世貫神社の御田植祭 口上（冒頭部分）

一 牛はめことば

○ヤアーイヤイ、謹しみて、

この神牛をはめたたえ奉る。

○まづは頭は神仙の山にして、

両眼は日月の如くなり。

角は水牛、耳は菊の花、

鼻は筭にして、齒は剣なり。

○この牛の背は蓬萊の山、腹は八界の海、

尾は小さくて長し、

この牛の股ぐらに下りたるは、

包粟とや言わん包粟にて候。

○この牛の働くや一日にして、

早生まきを四千町歩、

中生まきを四千町歩、

晩生まきを四千町歩、

併せて走万式千町歩を只一息に

よみ通すが如くなり。（以下、省略）



御田植祭の様子



【アクセス】世貫神社
国道269号沿い、曾於警察署近く

今年も開催！

日程 3月26日（日）
時間 午後3時～
場所 世貫神社

※雨天決行。
※今年も抽選会が計画されています。ぜひご参詣ください。
※神社駐車場が満車の場合は、大隅文化会館駐車場をご利用ください。